

高等学校国語科における指導の在り方に関する研究

－言語活動及び評価方法の改善を中心に－

「高等学校教科指導の充実に関する研究（国語）」研究会において、平成25年度から実施される新学習指導要領でより明確になった、言語活動を通じて言語能力を育成するという国語科指導の在り方について研究した。授業における言語活動の目的を明確にし、評価の観点・評価規準・評価方法を明らかにした指導事例を作成・実施して、言語活動の効果的な実践方法を探究した。同時に評価規準に基づいた観点別学習評価についても研究を進め、各学校における授業と評価の改善のための資料として供することを目指した。

〈検索用キーワード〉 学習指導要領 高等学校 国語科 国語総合 言語活動
評価規準 観点別 授業実践

研究会委員

県立尾西高等学校教諭	武田 和男
県立瀬戸窯業高等学校教諭	八橋 崇
県立五条高等学校教諭	板垣 光保
県立豊田北高等学校教諭	小宮山寛之
県立岡崎東高等学校教諭	伊藤 君江
県立時習館高等学校教諭	澤口 文利
総合教育センター研究指導主事	松原 正明
総合教育センター研究指導主事	小崎 早苗（主務者）

1 はじめに

新学習指導要領は、小学校においては平成23年度から、中学校においては平成24年度から全面实施されている。高等学校においては、平成22年度から先行実施されている総則や特別活動、平成24年度入学生から先行実施されている数学と理科に続き、平成25年度入学生から全面实施される。この学習指導要領改訂に際して、そのねらいを実現するための具体的な手だてとして重視されている柱の一つが「言語活動の充実」である。

平成21年3月公示の「高等学校学習指導要領」は、平成20年1月の中央教育審議会答申を踏まえた改訂がなされたものであり、この改訂に続いて、平成22年3月の中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」を受け、平成22年5月には文部科学省初等中等教育局長通知として「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」が発出された。

このような一連の学習指導要領改訂等の方向を定めた今次学校教育法では、第30条の第2項において学力の重要な3つの要素が示されている。すなわち、(1)基礎的・基本的な知識・技能、(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、(3)主体的に学習に取り組む態度の3要素である。このうちとりわけ思考力・判断力・表現力の育成に資する目的で、学習指導要領の改訂等に際して各教科等を貫く改善の視点として言語活動の充実が挙げられているというよう

に理解することができる。

こうした言語活動を重視するに至る検討は、直接には平成17年度中央教育審議会への審議要請に際して、「国語力の育成」が「学習指導要領の見直しに当たっての検討課題」の内に示されたことに始まったものである。これを受けて、平成20年の答申においては、「国語をはじめとする言語は、知的活動（論理や思考）だけではなく、（中略）コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある」として、各教科等における言語活動の充実が、各教科等を貫く重要な改善の視点として位置付けられたのである。

おおむね以上のような背景により、あらゆる学習活動を通して重視されることとなった言語活動であるが、これは文字通り「活動」であって、国語科以外の各教科等においては、各教科等における内容について指導するための手だてである。すなわち、各教科等における言語活動は、国語科で培った能力を基本に充実が図られるものであり、こうした言語活動を可能にする言語能力の育成を第一義的に担う教科である国語科においては、その役割について改めて認識を深め、授業改善を図ることが求められている。

2 研究の目的

当センターにおける研究調査事業の一つである「教科指導の充実に関する研究（国語）」においては、国語教育の当面する課題について調査研究を進め、各校における教科指導の充実のために供している。

当研究会では、新学習指導要領の実施に当たり、国語科における言語活動の在り方について研究を進めてきた。とりわけ、新学習指導要領において位置付けの改められた「言語活動例」に代表される言語活動について、効果的な授業実践の方法を探ることを目的として研究を重ねてきた。これは、国語科の指導を通して身に付けさせるべき言語能力等について、それを育成する指導の手だての側から研究したものである。

これと一体をなす研究の側面として、評価の在り方についても評価規準の設定を中心に研究を進めてきた。平成22年度の愛知県総合教育センター研究紀要第100集の「高等学校国語科における指導と評価の在り方に関する研究（中間報告）－『国語総合』における言語活動を中心に－」においては、「国語総合」を中心として県内各校で用いられている「国語科年間学習指導計画」が、指導と評価の計画としてどのような課題を有しているかを明らかにし、年間学習指導計画に示すべきと考えられる評価規準を例示した。平成23年度は、この評価規準に依拠して、指導と一体化した妥当性、信頼性のある評価を実現しうる授業改善について検討した。今年度は引き続き、言語活動を位置付けた効果的な授業の在り方と、評価規準とともに評価方法や評価時期も考慮した具体的な評価の在り方に関する研究を進め、各学校での実践上の参考とすることを目的とした。

3 研究の方法

- (1) 学習指導要領改訂及び評価の在り方に関わる諸答申や通知等の文献を参考にして、改訂によって高等学校国語の共通必修科目となる「国語総合」における言語活動の在り方を検討する。
- (2) 指導と評価の在り方について、総合教育センターにおける先行研究等を基にして、現状における授業と評価の課題を分析する。
- (3) (1)を基にして、「国語総合」の「評価規準の設定例」を作成し、単元における言語活動に対

応する「具体的な評価規準の設定例」を「指導事例」として作成する。

- (4) 「指導事例」を基に、研究協力委員が所属する各学校の生徒の実態等を考慮して授業実践を行い、「評価規準の設定例」に依拠した学習評価の妥当性について検証する。

4 研究の内容

(1) 研究に当たっての留意点

研究に当たって、次の共通理解の下に研究を進めた。

- ア 言語能力の向上を目指した学習指導要領改訂のねらいと授業実践とをつなぐ。
- イ 各学校における授業改善の方途を提案する。
- ウ 他教科等の指導の基本となる言語能力を育成する国語科の指導の在り方に配慮する。

(2) 研究の対象とする科目等

学習指導要領の改訂に際して、高等学校の教育課程としての共通性を重視する観点から、学習の基本、社会人として必要な国語の能力を育成する科目として共通必修科目とされた「国語総合」を研究の対象とする。

(3) 新学習指導要領に基づく評価規準の設定例

当センター研究紀要第100集「中間報告」において県立高等学校で現在使用されている「国語科年間学習指導計画」の傾向を分析した結果、学習指導要領等と対応した評価規準を設定する方法や、単元ごとの具体的な評価規準の設定方法、学習活動と学習評価を対応させる方法等が十分には理解されていないという課題が明らかになった。そこで、国語科における内容のまとまりに対応した評価の観点である「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の3観点について、「国語総合」の評価規準を「中間報告」において例示した。この評価規準によって単元、学期、学年における学習状況を評価することができるか、またこれが煩雑に過ぎることはないかを、本研究においても実践を通して検討した。

本研究において用いている評価規準は、新学習指導要領において「国語総合」の「2内容」に「(1) 次の事項について指導する」とある指導事項を、言語活動例や教材と対応させやすく、科目の指導を通じて漏れなく、しかもバランスよく指導できるように配慮して細分化したものである。領域別の指導事項とそれに対応する「評価規準の設定例」における項目数は【表1】の通りである。

【表1】指導事項と「評価規準の設定例」の項目数

領域	学習指導要領の 指導事項の項目数	「評価規準の設定例」 とした項目数
A 話すこと・聞くこと	4	12
B 書くこと	4	9
C 読むこと	5	15

これらの項目の具体的な内容は、後出の指導事例ごとに【資料1】「具体的な評価規準の設定例」として掲載する表に、『話す・聞く能力』に関する評価規準の設定例等として記載したものである。これらの項目のアルファベットa, b等は、それぞれ対応する領域の「指導事項」ア, イの順に対応しており、評価規準と「指導事項」との対応を明確にした指導と評価がなされるように配慮した。これらの「具体的な評価規準」は具体的とはいいながら、特定の単元や教材等との対応を想定して設定したものではなく、次項に述べる「言語活動における具体的な評価規準の設定例」として、更に具

体化することで単元計画に位置付けることができるものである。本研究のまとめで、それぞれの指導事例ごとに示した指導計画において、これらの評価規準を具体的な学習活動の中に位置付け、評価方法の例と合わせて示している。また、これらの評価規準の設定例は、学習指導要領の「指導事項」を基に、『高等学校学習指導要領解説国語編』（以下「解説」）の内容を参考にして、おおむね学習の過程に沿った順序となるよう配列した。

なお、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成22年5月）によって示された国語科の特性に応じた評価の観点は、【表2】のような対応関係にあるものであり、それぞれの内容のまとまりに応じた評価の観点は、単に表現や理解の言語技能についてだけでなく、思考・判断・表現の観点を含んでいる。このことは評価規準を具体化するに当たって注意すべき点である。

【表2】〔学力の要素と評価の観点との対応のイメージ〕

学力の要素 (学校教育法)	評価の観点	国語科の特性に応じた 評価の観点		
主体的に学習に 取り組む態度	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
(習得した知識・技能を活用して課題 を解決するために必要な) 思考力・判断力・表現力その他の能力	思考・判断・表現	話 す ・ 聞 く 能 力	書 く 能 力	読 む 能 力
基礎的・基本的な 知識及び技能	技能			
	知識・理解	知識・理解		

この評価規準の設定例を用いた実践の中で、以下のような点も明らかになった。例えば、「国語総合」「A 話すこと・聞くこと」には「指導事項エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」といった項目がある。本研究においては、ここから「Ad② 話したり聞いたり話し合ったりした際の表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てている」という評価項目を設けている。これを実際の指導計画と対応させて位置付けるためには、「音声言語活動→自己評価・相互評価→音声言語活動」という一連の学習活動を設けることが必要であり、このような活動なしに「自分の話し方や言葉遣いに役立てる」ことについて指導したり、評価したりすることはできない。後出の＜指導事例1＞においては、評価規準を「Ad① 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価を行い、ものの見方、感じ方を豊かにしている」とし、「音声言語活動→自己評価・相互評価」という学習活動を設定した。評価規準を細かく設定しておくことで、指導すべき内容を明らかにすることのできた一例である。

このように、「指導事項」を細分化した評価規準をあらかじめ設定しておくことは、指導を焦点化し、その成果を測るために有効な手だてであり、個々の具体的な指導例については後出の指導事例において詳細に述べている。

(4) 単元を貫く柱としての言語活動に対応した「具体的な評価規準の設定例」について

本研究においては単元を貫くように設定した言語活動の過程に対応した具体的な評価規準を例示しており、それぞれの指導事例に【資料1】として示した「具体的な評価規準の設定例」がこれである。

本研究においては、「言語活動例」として例示されている活動が具体的にはどのような学習過程によって成立するものであるかを分析し、この活動を通して身に付けさせることができる「指導事項」にある言語能力、つまり「評価規準」と対応する能力との対応を明らかにすることを目的の一つとしている。したがって、指導事例にある単元構想においては想定していない学習活動であっても、一連の言語活動の中に設定することが可能であれば、これと対応する具体的な活動や教材に対応した「具体的な評価規準」をできるだけ多く記載するという方針をとっている。

その上で、「具体的な評価規準の設定例」の「重点化」欄に「○」の記載のある欄と、空欄の欄とを区別している。「重点化」欄に「○」のない項目に対応する学習活動は、実施したとしても該当の単元における重点的な指導の内容としては構想しておらず、したがって実際の指導においても、学習集団全体に対して指導の手だてを講じ、この成果を評価するということはしていない。なお、ここでいう「重点的指導」とは、単元の指導事項として設定し、一部の生徒の必要に応じた指導ではなく、生徒全員を対象として指導し、全員を評価の対象とする位置付けの指導をいうものである。

なお、指導事例において設定する言語活動は学習指導要領の言語活動例として挙げられているものから設定し、主たる教材は現行の「国語総合」で用いられているものから選定している。

(5) 指導事例の領域、言語活動と主たる教材例

指導事例として【表3】に示す4事例を挙げた。内訳は「話すこと・聞くこと」の領域における単元化の1事例、「書くこと」の領域における単元化の1事例、「読むこと」の領域における単元化の2事例である。また、教材の分野は現代文を用いたものが1事例、古典を用いたものが2事例、現代文と古典とを共に用いているものが1事例である。

なお、＜指導事例1＞は当センター研究紀要第100集「中間報告」に「指導事例1」として、＜指導事例3＞は同101集に「指導事例6」として掲載したものを、一部変更して掲載した。

【表3】指導事例の領域等

	領域	言語活動	主な教材
＜指導事例1＞	話すこと・聞くこと	随想を読んでスピーチしよう	随想「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子
＜指導事例2＞	読むこと	読み比べることで主題を考えよう	「羅生門」芥川龍之介・『今昔物語集』
＜指導事例3＞	読むこと	「児のそら寝」を朗読劇の脚本にしよう	『宇治拾遺物語「児のそら寝」』
＜指導事例4＞	書くこと	「三夕の和歌」を基に着想した短歌を詠もう	『新古今和歌集』

5 研究の成果と今後の課題

(1) 単元を貫く柱としての言語活動

今回の学習指導要領改訂に際しては、既に先行実施されている「総則」において教育課程編成の一

般方針の第1項目に「言語活動の充実」が含まれており、学校教育において思考力・判断力・表現力を育む礎となる言語能力を育成する教科としての国語科の役割の重さが一層強調されている。そこで、各学校の国語科の授業改善に資するべく、まだ十分な成果としてまとまってはいないが、現段階における成果と課題を報告するものである。

本研究における理解では、「言語活動例」として示されている言語活動とは、単元を貫く柱として設定し、単元における学習活動を、個々の教材に限定したものでなく、一連の学習活動として位置付けるための装置である。このことを単元の始めに生徒に示すことによって、生徒は学習に見通しを立て、個々の学習活動の意義を意識して、意欲的に学習に取り組むことができる。そのため、この柱として示す言語活動は、生徒が具体的にイメージできる既習の活動である必要があり、指導者は、ねらいとする言語能力等を身に付けることが必要な言語活動を、それにふさわしい教材と合わせて設定することで、その言語活動の過程を通して期待する能力が身に付いたかどうかを評価することになる。

したがって、単元を貫く柱としての言語活動を設定するためには、指導者としてはまず、学習者の学習履歴と現時点における言語能力や興味・関心等を把握することが必要である。また、それぞれのまとまった言語活動がどのような言語能力を基盤として成立するものであるかについて分析的に理解しており、かつ具体的な指導方法を体得していることも不可欠である。そうして、このような単元の柱としての言語活動を展開する過程に、新たな言語能力等を身に付けることが必然となる学習活動を設定する。こうした単元の中に含まれる学習活動においては、国語科の必然として言語を用いた話し合い、説明、要約、資料検索等の活動があり、これらについて指導することで、教科のねらいとする言語能力等を身に付けさせることになるのである。

(2) 評価方法の改善に向けて

今回実践事例として掲載している4事例は、研究員それぞれの所属校における実践を経て修正を加えた数多くの事例から選択したものである。指導事項（指導目標）－言語活動－評価規準－評価方法（評価時期）の一連のつながりに整合性があり、指導目標が達成され、妥当性・信頼性のある評価を行った事例を、各学校における実践上の参考として示すことがねらいであった。そのねらいはある程度達成できたと思われるが、なお改善の余地は大きい。

実践を通して最も課題があると感じたのは、評価方法（評価時期）に関することであった。単元終了後の定期考査のみでなく、各授業における学習活動の達成度を適切に評価するには、ペーパーテストによる評価とは異なるさまざまな工夫が必要であり、実践の積み重ねによる方法の蓄積が欠かせない。今回示した事例においては、自己評価・相互評価を行う項目のねらいを生徒が理解していなかったり、ワークシートの構造化が不十分なため生徒の記述が焦点化されなかったりして、計画通りの評価を実施できなかった事例があった。今後多くの実践・検討を積み重ね、方法・手段の蓄積を図っていくことにより、より妥当な評価が可能になっていくのではないかと思う。今後の課題として取り組んでいきたい。

また、定期考査のみでなく、各授業における学習活動の達成度について評価し点数化することについては、教科を超えて学校全体で共通理解を図る必要がある。今回の研究においてこの点には言及していないが、生徒及び教科担当の教員ばかりでなく、保護者や学級担任、その他すべての教員にも理解される妥当性のある評価を行うためには、教科を超えて情報交換を行い、共通理解を図るよう心がけることが肝要である。

評価規準の設定方法等についても、「中間報告」以降修正の必要な箇所があり、今後とも実践を重ねることによって、より適切なものに改善していきたい。

これら以外にも残る課題は多いものの、本研究の目的は、この研究に当たった研究会の名称にもある「教科指導の充実」であり、今後とも御批正を賜りつつ研究を継続したい。

・参考文献等

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 平成21年3月告示
- 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説国語編』 平成22年6月
- 文部科学省 『中等教育資料』「高等学校国語の指導の改善」 平成20年3月号から平成24年2月号（以下継続連載）
- 中央教育審議会 「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善等について（答申）」 平成20年1月
- 文部科学省初等中等教育局長通知 「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」 平成22年5月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成のための参考資料 小学校編」 平成22年11月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校編）」 平成23年3月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校編）」 平成23年7月
- 西辻正副編著 「国語の授業を変える1 評価規準をどう創るか 中・高等学校編」明治書院 平成23年7月
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 国語）」 平成24年3月
- 文部科学省 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【高等学校版】」 平成24年6月
- 愛知県総合教育センター 「高等学校国語科における評価規準，評価方法等のあり方に関する研究 ―「国語総合」年間学習指導計画の作成を中心に（中間報告）―」 『総合教育センター研究紀要第92集』（平成14年度）
- 愛知県総合教育センター 「高等学校国語科における指導と評価の在り方に関する研究（中間報告） ―「国語総合」における言語活動を中心に―」 『総合教育センター研究紀要第100集』（平成22年度）
- 愛知県総合教育センター 「高等学校国語科における指導と評価の在り方に関する研究 ―「国語総合」における言語活動を中心に―」 『総合教育センター研究紀要第101集』（平成23年度）

<指導事例 1> 国語総合「随想を読んでスピーチをする事例」

【学習活動の概要】

1 単元名 随想を読んでスピーチしよう								
2 単元の目標 ・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしようとする。（関心・意欲・態度） ・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにする。（話す・聞く能力） ・話すこと，聞くことに必要な文や文章の組立て，語句の意味，用法について理解する。（知識・理解） ・言語文化に対する理解を深める。（知識・理解）								
3 取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 状況に応じた話題を選んでスピーチをすること。 (2) 教材 随想「書きたい気持ちを大切にしたい」井形慶子								
4 単元の具体的な評価規準【P.12資料1】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th><th>話す・聞く能力</th><th>知識・理解</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしようとしている。</td><td>・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしている。</td><td>・話すこと，聞くことに必要な文や文章の組立て，語句の意味，用法について理解している。 ・言語文化に対する理解を深めている。</td></tr> </tbody> </table>			関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解	・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしようとしている。	・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしている。	・話すこと，聞くことに必要な文や文章の組立て，語句の意味，用法について理解している。 ・言語文化に対する理解を深めている。
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解						
・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしようとしている。	・話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにしている。	・話すこと，聞くことに必要な文や文章の組立て，語句の意味，用法について理解している。 ・言語文化に対する理解を深めている。						
5 単元の指導計画 (1) 学習活動 本単元では，随想「書きたい気持ちを大切にしたい」を読み，「書くこと」に関する自分の意見をスピーチし，グループ・クラスで自己評価及び相互評価をする。 (2) 言語活動に関する指導上の留意点 筆者の意見をきっかけにして自分の意見をもたせ，その根拠とともに述べさせる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>次</th><th>学 習 活 動</th><th>言語活動に関する指導上の留意点</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次</td><td> ・教材文の読解 ・5人ずつのグループを6つ作り，2種類のワークシートに取り組む。 ＊『書くこと』について考えるためのワークシート【P.14資料2】を用い，筆者 </td><td> ・難解な語句の意味，用法について理解させる。読み取りが難しい場合は，机間指導の中で助言をする。 ・筆者の叙述に共感するかどうかを「○」「？」といった記号と簡潔コメ </td></tr> </tbody> </table>			次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	第1次	・教材文の読解 ・5人ずつのグループを6つ作り，2種類のワークシートに取り組む。 ＊『書くこと』について考えるためのワークシート【P.14資料2】を用い，筆者	・難解な語句の意味，用法について理解させる。読み取りが難しい場合は，机間指導の中で助言をする。 ・筆者の叙述に共感するかどうかを「○」「？」といった記号と簡潔コメ
次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点						
第1次	・教材文の読解 ・5人ずつのグループを6つ作り，2種類のワークシートに取り組む。 ＊『書くこと』について考えるためのワークシート【P.14資料2】を用い，筆者	・難解な語句の意味，用法について理解させる。読み取りが難しい場合は，机間指導の中で助言をする。 ・筆者の叙述に共感するかどうかを「○」「？」といった記号と簡潔コメ						

	の主張を確認する。筆者の現状分析や主張についての自分自身の考えを振り返り、自分の意見を簡潔に記す。 ＊「『文字によるメッセージ』を考えるワークシート」【P. 15資料 3】を用いて、文字によるメッセージにはどのようなものがあるかを考える。	ントで記させる。 ・自分のスピーチを考える際の資料とさせる。
	【評価規準】 ・話すこと・聞くことに必要な語句の意味、用法について理解している。 (知識・理解) ・「書かれた言葉」を中心に言語文化に対する理解を深めている。 (知識・理解) 【評価方法】 ・「記述の確認」【P. 14資料 2】【P. 15資料 3】	
第 2 次	・「書くこと」や「書かれたメッセージを受け取ること」について、教材の内容と自分の経験等とを基に考えをまとめ、構成を工夫してスピーチメモ【P. 15資料 4】を作る。スピーチメモの内容についてグループで発表し考えを深め合い、スピーチ原稿を作成する。	・司会を決めて進行させ、感想や考えの共通点や相違点を明らかにさせる。 ・グループ内で互いに意見を比較することにより、考えを整理させる。
	【評価規準】 ・話すこと・聞くことに必要な文や文章の組立てについて理解している。 (知識・理解) 【評価方法】 ・「記述の確認」【P. 15資料 4】	
第 3 次	・グループ内でプレススピーチを実施し、自己評価、相互評価を自己評価表【P. 16資料 5】、プレススピーチ相互評価表【P. 16資料 6】に記入する。相互評価を基にして助言し合い、代表を選ぶ。	・「工夫のポイント」の申告、相互評価の記入、助言と代表選出など、プレススピーチ進行の手順をあらかじめ伝えておく。 ・代表スピーチの「気付いてほしいよさ」についてグループで話し合い、一点に絞り、代表者のスピーチメモに記入させる。
	【評価規準】 ・プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行うことによって、「書くこと」についての考え方を豊かにしようとしている。 (関心・意欲・態度)	

	【評価方法】 ・「行動の観察」 【評価規準】 ・プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行うことによって、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。(話す・聞く能力) 【評価方法】 ・「記述の確認」【P. 16資料 5】【P. 16資料 6】	
第 4 次	・グループの代表によるスピーチを実施する。聞き手は、評価とともに「書くこと」についての自分の意見をクラススピーチ評価表【P. 17資料 7】に書く。	・評価を記入する時間を、各スピーチの後に 2 分程度設ける。 ・自分が選んだスピーチの内容について、自らの意見と比較しながら感想を述べる。
	【評価規準】 ・プレススピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行うことによって、「書くこと」についての考え方を豊かにしている。(話す・聞く能力) 【評価方法】 ・「記述の分析」【P. 17資料 7】	

6 第 4 次の指導計画（1 時限中の 1 時限）

学習 段階	学 習 内 容	学 習 活 動	指導の留意点と評価の実際
導入	本時の学習目標を理解する。	①本時の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本時の目標を示す。 ・発表順は本時の開始前までに知らせておき、進行と計時には指導者が当たる。 ・クラススピーチ評価表の項目とは別に、個々の代表スピーチについて特に良かった点を挙げさせ、前次に各グループで挙げた「気付いてほしいよさ」と比べられるようにする。
展開	クラススピーチを行う	②代表者はクラススピーチを行う。聞き手は評価をクラススピーチ評価表【P. 17資料 7】に記入する。 ③単元を通して「書く	②・発表順を掲示し、発表者は前に出てスピーチする。 ・1 人のスピーチ（3 分）ごとに 2 分程度、評価表への記入時間を設ける。 ③・代表スピーチのうち、自分自身の「書

		こと」について考えたことを、代表スピーチと関連付けて、クラススピーチ評価表【P. 17 資料 7】に記入する。	くこと」についての考えを豊かにしてくれたものを 1 点選び、クラススピーチ評価表【P. 17 資料 7】に感想を記入する。 ・選んだスピーチにおける「書くこと」についての考え方を検討し、自分の考えと比較しながら、クラススピーチ評価表【P. 17 資料 7】に感想を記す。
終結	講評とまとめを行う。	④指導者が、スピーチについて講評する。	④・代表スピーチの「気付いてほしいよさ」（前時に各グループで挙げたもの）について指導者が紹介し、各スピーチの特長について講評する。 ・スピーチメモ【P. 15 資料 4】、スピーチ原稿、クラススピーチ評価表【P. 17 資料 7】を提出させる（その他の資料は回収済み）。 ★クラススピーチ評価表【P. 17 資料 7】の「記述の分析」に基づいて評価する。

7 指導事例と学習指導要領の関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

「国語総合」内容「A 話すこと・聞くこと」(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである（主に下線部）。

ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。

「国語総合」内容「A 話すこと・聞くこと」の(2)

【言語活動の設定理由】

「書くこと」という文学的で親しみがもてる話題について生徒それぞれが自分の考えを語り、聞くことは、新鮮で興味深い体験であり、指導事項「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」にふさわしいと考えた。

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（話す・聞く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「話す・聞く能力」に関する評価 規準の設定例（12 項目）	重 点 化	言語活動における具体的な評価規準の設定例
ア 話題について さまざまな角度 から検討して自 分の考えをもち、 根拠を明確にす るなど論理の構 成で意見を述べ ること。	a ① 話題について自分なりの課題 意識をもち、問題や論点を見付け ている。		・教材文を読み、「書く」スタイルの変容、「書 くこと」によるメッセージの伝わり方について 考えている。
	a ② 話題についてさまざまな角度 から検討している。		・電話と携帯メール、手紙とメールなどを比較 したり、自分自身の経験をもとにして「書くこ と」や「書かれたメッセージを受け取ること」 について考えたりして、「書くこと」について、 様々な角度から検討している。
	a ③ 意見を述べるときに、自分の 意見の根拠を明確にしている。		・「書くこと」について、自分の意見とその根拠 とを明確にしている。
	a ④ 自分の考えを、根拠を明確に するなど論理の構成や展開を工夫 して意見を述べる。		・自らの意見の根拠となる事柄を箇条に分けて 示したり、考えをまとめるに至った過程をたど りながら説明したりするなどの工夫をして意見 を述べている。
イ 目的や場に応 じて、効果的に 話したり的確に 聞き取ったりす ること。	b ① 目的や場に応じて、伝達すべ き内容がよく伝わるように、資料 や機器を活用して話している。		・クラスで発表する際に提示する資料を用意し、 スピーチのどこで提示するかを工夫している。
	② 目的や場にふさわしい表現で話 している。		・クラスでスピーチするのにふさわしい接遇表 現を用い、聞き手に対して丁寧語を用いたり、 必要に応じて敬語表現を用いて話したりしてい る。
	b ③ 目的や場に応じた的確に聞き 取り、必要に応じてメモや要約を したり、質問や感想などを述べた りすることができる。		・グループ内のプレススピーチやクラスでのスピ ーチを聞いて、主張の要点をメモしたり、質問 や感想をワークシートに記載したりすることが できる。
ウ 課題を解決し たり考えを深め たりするために、 相手の立場や考 えを尊重し、進 行の仕方などを 工夫して話し合 うこと。	c ① 相手の考えの基となる事実、 考えを形成する過程等や、自分の 意見との共通点や相違点について 整理したり質問したりして相手の 考えを的確に理解して話し合っ ている。		・プレススピーチを聞いて、「書くこと」につい ての考えやその考えを形成する過程などにつ いて、自分の意見との共通点や相違点を整理 して意見を述べたり、質問したりして考えを 深めている。
	c ② 話の構成や展開、言葉遣いと いった論理的な側面と、表情や声 の調子等の情意的な側面とに配慮 して話し合っている。		・プレススピーチを聞いて助言しあう際に、グル ープ内での話合いに進んで参加し、相手の立 場を尊重して自分の考えを述べている。
	c ③ 話合いの目的を理解して、司 会者や提案者などの役割を果たし たり、話合いの展開を考えたりし ている。		・プレススピーチをもとにしてグループ代表を選 び、「書くこと」についての考えを深めるため のスピーチとして改善する点について司会者 を決めて話し合う。

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容やついて自己評価や相互評価を行い，自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。	d① 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容について自己評価や相互評価を行い，ものの見方，感じ方を豊かにする。	○	・プレスピーチやスピーチの内容について自己評価や相互評価を行って，評価したりすることによって，「書くこと」についての考え方を豊かにしている。
	d② 話したり聞いたり話し合ったりした際の表現の仕方について自己評価や相互評価を行い，自分の話し方や言葉遣いに役立てている。		・プレスピーチやスピーチの表現の仕方について自己評価や相互評価を行い，自分の話し方や言葉遣いに役立てている。

【資料2】「書くこと」について考えるためのワークシート（第1次）

「書きたい気持ちを大切にしたい」 年 組 番 氏名

- 1 「書きたい気持ちを大切にしたい」では次にあげたそれぞれのエピソードを通して、筆者のどのような考えが述べられているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

書かれたものの例	エピソード	筆者の考えたこと	共感
これまでに受け取った手紙	・年頭に手紙を整理する時に、保管してある昔の手紙を読み返すと、どれだけたった後でも同じように胸が熱くなる。	(ページ 行目)	
昔もらったカードや手紙	・欧米の家庭では、家族の思い出話が始めると、	(ページ 行目)	
おばあちゃんから来た手紙」「ママが書いた僕の顔」「男の子から筆者への手紙」	・五歳の男の子が普段から、 ・筆者が五歳の男の子からもらった手紙には、彼の知っている人々の顔が描かれており、	(ページ 行目)	

- 2 筆者は「書く」ことにどのような変化がみられると述べているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

これまでのスタイル	新しいスタイル	共感
カップルが長電話をする。	携帯電話で何時間も送受信を繰り返す。	
隣の席の社員と直接対話する。		
年賀状はお年玉付き年賀はがきで出す。		
クリスマスカードは郵送する。		

- 3 筆者は、「書くこと」の果たす役割がどのように変化していると述べているか。文中の語句を用いて次の表を完成させなさい。

私たちが、「書くこと」によって	共感
という傾向は、	

- 4 筆者は「書くことの偉大さ」をいろいろな表現で述べている。そのうち最も印象的な表現を用いて、「書くことの偉大さ」を簡潔にまとめなさい。

	共感

- 5 筆者の考えに共感する場合は「○」、共感できない場合は「？」を、2から5までの下欄にある「共感」の欄に記載しなさい。また、「書く」スタイルの変化、「書くこと」の「話すこと」との違いについて、この文章を読んで感じたことや考えたことを書きなさい。

(「書く」スタイルの変化について)

「話すこと（しゃべり言葉）」は、

それと比較して「書くこと（書いた言葉）」は、

【資料３】「言葉によるメッセージ」（グループごとの記録用紙）（第１次）

《文字によるメッセージ》□班	
〈特定の相手に向けて〉	〈不特定の相手に向けて〉

【資料４】スピーチメモ（第２次）

スピーチメモ 「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名 スピーチの構成メモ 項目が足りないときは付け足すこと。 <table border="1"> <tr><td>1</td></tr> <tr><td>2</td></tr> <tr><td>3</td></tr> <tr><td>4</td></tr> <tr><td>5</td></tr> <tr><td>6</td></tr> </table> クラススピーチで評価してほしい点 <table border="1"> <tr><td></td></tr> </table>	1	2	3	4	5	6		※ プレスピーチでアピールしたい項目に○をつけておく。 （内容に関するメモ） 1 「書くこと」についての考え方 2 想定できる別の考え方 3 根拠として例示するエピソードなど 4 その他 教材から引用する内容 考え方が変化したプロセス その他 （構成に関するメモ） 1 自分の考え方（結論）の位置 始め 終わり 繰り返す 2 根拠を述べる位置 結論の後で根拠をあげる 根拠をあげてから結論を述べる 3 その他 教材からの引用の役割（補強・否定） その他
1								
2								
3								
4								
5								
6								

【資料５】自己評価表（第３次）

プレススピーチ自己評価表

「書くこと」についてスピーチする _____ 年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____

※ 次の項目について「ＡＢＣ」の３段階で相互評価する。

- １ 意見が明確に伝わる。 ２ 考えの根拠が分かりやすい。 ３ 聞き取りやすい。
４ 工夫は効果的である。

１ 意見	２ 根拠	３ 話し方	４ 工夫

５ 特に良かったと思う点

--

６ 改善したいと思う点

--

７ その他の感想

--

【資料６】相互評価表（第３次）

プレススピーチ相互評価表

「書くこと」についてスピーチする _____ 年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____

※ 次の項目について「ＡＢＣ」の３段階で相互評価する。

- １ 意見が明確に伝わる。 ２ 考えの根拠が分かりやすい。 ３ 聞き取りやすい。
４ 工夫は効果的である。

班					
発表者	１ 意見	２ 根拠	３ 話し方	４ 工夫	５ コメント

【資料 7】 相互評価表（第 4 次）

クラススピーチ評価表

「書くこと」についてスピーチする 年 組 番 氏名

〔1〕スピーチを聞いて次の項目について「◎○△」の 3 段階で評価する。

1 意見が明確に伝わる。 2 考えの根拠が分かりやすい。 3 聞き取りやすい。

	発表者	1 意見	2 根拠	3 話し方	4 特によい点
1					
2					
3					
4					
5					
6					

〔2〕クラススピーチから 1 点を選び、その発表者に向けて感想を述べなさい。ただし、自分自身の「書くこと」についての考え方も発表者に伝わるように双方の考え方を比較して書きなさい。

--

<指導事例2> 国語総合「文章を読み比べ、内容について批評する文章を書く事例」

【学習活動の概要】

1 単元名 読み比べることで「羅生門」の主題を考えよう

2 単元の目標

- ・文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりする。 (読む能力)
- ・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。 (知識・理解)

3 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 さまざまな文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。
- (2) 教材 小説「羅生門」芥川龍之介、『今昔物語集 卷二九第一八』

4 単元の具体的な評価規準【P.22資料1】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じようとしている。 ・段落に注目するなどして、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えようとしている。	・文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じている。 ・段落に注目するなどして、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。	・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。

5 単元の指導計画

(1) 学習活動の概略

本単元では、同じ題材を扱った古典の作品と近代の小説である「羅生門」を読み比べ、小説の主題について文章を書く。

(2) 指導上の留意点

作者が作品に付け加えた部分や改変した部分に注目することにより書き手の意図が読み取れることに気付かせる。

次	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点

第1次	・「羅生門」のあらすじをつかみ、ワークシート1【P.24資料2】にまとめる。 ・「羅生門」を読み、内容を捉える。	・細部にこだわらず概略をまとめさせる。 ・表現の特色や語句や語彙についても指導する。
	【評価規準】 ・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解している。 (知識・理解) 【評価方法】 ・「記述の確認」ワークシート1【P.24資料2】・ノート	
第2次	・ワークシート2【P.25・26資料3】により『今昔物語集』を読み、「羅生門」との違いを確認する。 ・自己評価シート【P.27資料4】により自己評価を行う ・ワークシート3【P.28資料5】を用い内容や表現の違いの理由をグループで話し合う。 ・他のグループの意見を聞き、考えをより深める。	・『今昔物語集』については筋の違いに注目させるため、部分訳や語注を参考にさせる。 ・時間的余裕があれば、気が付いた相違点やそれについて考えたことを発表させる。 ・いくつかの相違点の中で特に考えさせたい点について絞り込みを行う。 ・グループで出された意見を代表に全体の場で発表させる。
	【評価規準】 ・それぞれの文章の表現の特徴を規準や根拠を明確にして理解している。 (読む能力) 【評価方法】 ・「記述の確認」ワークシート2【P.25・26資料3】	
第3次	・ワークシート3【P.28資料5】により気付いたことから「羅生門」の主題についてグループで話し合う。 ・話し合ったことを参考に主題について自分が考えたことをまとめる。	・「羅生門」に見られる特徴から作者の意図を考え、主題の理解に進める。 ・グループで自由に意見交換を行うが、その際にいくつかの主題を提示し参考にさせる。 ・作品の主題について自分が考えたことをまとめさせる。
	【評価規準】 ・物語の展開の違いに注目し、作品の執筆動機や主題について考えようとしている。 (関心・意欲・態度)	

	【評価方法】 ・「行動の観察」グループ討論	
第4次	・作品の主題について書いたものを相互評価シート【P. 29資料6】により相互に評価する。 ・自己評価シート【P. 30資料7】により自己評価を行い、取り組みを通して気付いたことをまとめる。	・相互評価を多数の生徒と行わせ、自分以外の考え方に気付き、作品に対する理解を深めさせる。 ・自己評価を行わせ、新たに気付いたことや考えたことをまとめさせる。
【評価規準】 ・物語の展開の違いに注目し、作品の執筆動機や主題について考えている。 (読む能力)		
【評価方法】 ・「記述の分析」ワークシート3【P. 28資料5】・自己評価シート【P. 30資料7】		

6 第3・4次の指導計画 (2時限相当)

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の実際
展開1	前次の発表の確認をグループ内で行う。 主題について話し合う。	①前次にそれぞれのグループから発表された点について、内容の確認をグループ内で行う。 ②問について話し合ったことを参考に主題は何かグループ内で話し合いワークシート3【P. 28資料5】に記入する。	①・以下の3つの問いについてそれぞれの発表内容を確認させる。 a 『今昔物語集』でははじめから盗人であった主人公を暇を出された若い下人としたのはなぜか。 b 『今昔物語集』では老婆の着物も死人の着物も髪の毛も奪っていったが、「羅生門」では老婆の着物だけ奪っていったのはなぜか。 c 結末部分を「下人の行方は、誰も知らない。」としたのはなぜか。 ②・作者が作品に意図的に付け加えた部分から作品への思いが読み取れることを示し、主題について自由に話をさせ、考えを深めさせる。その際次の4つの主題を提示し考える参考にさせる。 a 人間のエゴイズムの悲しさ b 生への執着の肯定 c 倫理意識からの解放 d 若者の自立の困難

	主題について考えたことをまとめる。	③グループでの話し合いを基に主題について自分が考えたことをワークシート3【P.28資料5】にまとめる。	★グループ討論での「行動の観察」により評価を行う。 ③・話し合いを基に作品の主題について、題名をつけて考えたことを400字程度でまとめさせる。
展開2	他の考えを知り自己の考えを広げる	④ワークシート3【P.28資料5】の記述を相互評価シート【P.29資料6】を用いて相互評価する。 ⑤自分に対する相互評価シート【P.29資料6】の内容を確認する。 ⑥自己評価シート【P.30資料7】を用いて自己評価を行い、取り組みを通して気付いたことをまとめる。	④・相互評価シート【P.29資料6】により、他の生徒の書いたものを相互評価させる。 ⑤・相互評価シート【P.29資料6】を回収、配布し内容を確認させる。 ⑥・自己評価シート【P.30資料7】により評価させ、その後ワークシート3【P.28資料5】、自己評価シート【P.30資料7】を回収する。 ★ワークシート3【P.28資料5】・自己評価シート【P.30資料7】の「記述の分析」により評価を行う。

7 指導事例と学習指導要領の関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
「国語総合」内容「C読むこと」の(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ア 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。
「国語総合」内容「C読むこと」の(2)

【言語活動の設定理由】

本事例の指導事項である「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること」の下線部分に特に重点を置き、「様々な文章を読み比べ」ることによって「文章の構成や展開」がより明確となり、「書き手の意図」や主題を考えるにあたっての糸口となると考え「様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べた

り批評する文章を書いたりすること」の言語活動を設定した。

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「話す・聞く能力」に関する評価 規準の設定例（12 項目）	重 点 化	言語活動における具体的な評価規準の設定 例
ア 文章の内容や 形態に応じた表 現の特色に注意 して読むこと。	a ① 文学的な文章について、内容 と、形態に応じた表現の特色とを 理解して文章を読んでいる。		・それぞれの文章について、内容に応じた 表現の特色を理解して文章を読んでいる。
	a ② 論理的な文章について、内容 と、形態に応じた表現の特色とを 理解して文章を読んでいる。		・該当なし
	a ③ 実用的な文章について、内容 と、形態に応じた表現の特色とを 理解して文章を読んでいる。		・該当なし
イ 文章の内容を 叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じ て要約や詳述を したりすること。	b ① 文脈をとらえ、語句や表現に 注意して、筆者の考えなどを過不 足無く理解している。		・それぞれの文章を語句や表現に注意して 理解し、物語の設定や内容を理解している。
	b ② 読む必要に応じて、文章を要 約している。		・それぞれの文章を比較するために要約し ている。
	b ③ 読む必要に応じて、文章の一 部を詳述している。		・登場人物の行動の意味や結果について考 える際に、本文の内容に即して詳しく説明 している。
ウ 文章に描かれ た人物、情景、 心情などを表現 に即して読み味 わうこと。	c ① 表現に即して、登場人物の、 行動や性格、ものの見方、感じ方、 考え方、ひいては生き方を的確に 捉えて、人物個々の心情の変化や、 人物相互の関係の変容を読み取っ ている。		・作品それぞれの内容の違いから、もの の見方、考え方の違いを理解している。
	c ② 情景が、人物の反映や象徴、 物事が起こる予兆などとして設定 されていることを理解し、表現に 即して、人物の言動、置かれてい る状況を理解する手がかりとして いる。		・作品それぞれにおける情景描写の特徴を 捉え、登場人物の行動や置かれている状況 を理解する手がかりとしている。
	c ③ 登場人物の心情に思いを致し、 自らの生き方と重ね合わせて共感		・登場人物の心情に思いを致し、自らの生

	したり反発したりしている。		き方と重ね合わせて感想をもっている。
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d ① 文章の組立て等の構成と、考えの進め方や内容の推移等の展開を確かめている。		・物語の展開を捉え、登場人物の置かれた状況と行動のつながりを理解している。
	d ② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判断することができる。	○	・それぞれの文章の表現の特徴を基準や根拠を明確にして理解している。
	d ③ 段落に注目するなどして、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。	○	・物語の展開の違いに注目し、作品の執筆動機や主題について考えている。
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e ① 文学的，論理的，実用的文章等幅広い形態の，多様な内容の文章を，さまざまな方法で探して読んでいる。		・該当なし
	e ② 本や文章によって得た情報を選択，評価，加工している。		・該当なし
	e ③ 幅広く本や文章を読み，書き手の意図を捉え，読み味わうことによって自分なりの考えをもつようになっている。		・作品を比較して読むことにより，書き手の意図を考え，作品について自分なりの考えをもつようになっている。

【資料 2】

「羅生門」あらすじ（ワークシート1）

朗読を聞きあらすじをまとめなさい。

【メモ】

Case No.	Case Name	Case Type	Case Status	Case Date	Case Location	Case Description	Case Details	Case Notes
1	John Doe	Case 1	Open	2023-01-01	New York	Case 1 Description	Case 1 Details	Case 1 Notes
2	Jane Smith	Case 2	Closed	2023-01-02	California	Case 2 Description	Case 2 Details	Case 2 Notes
3	Bob Johnson	Case 3	Pending	2023-01-03	Texas	Case 3 Description	Case 3 Details	Case 3 Notes
4	Alice Brown	Case 4	Open	2023-01-04	Florida	Case 4 Description	Case 4 Details	Case 4 Notes
5	Charlie Davis	Case 5	Closed	2023-01-05	Illinois	Case 5 Description	Case 5 Details	Case 5 Notes
6	Eve White	Case 6	Pending	2023-01-06	Ohio	Case 6 Description	Case 6 Details	Case 6 Notes
7	Frank Green	Case 7	Open	2023-01-07	Georgia	Case 7 Description	Case 7 Details	Case 7 Notes
8	Grace Black	Case 8	Closed	2023-01-08	Arizona	Case 8 Description	Case 8 Details	Case 8 Notes
9	Henry Blue	Case 9	Pending	2023-01-09	Colorado	Case 9 Description	Case 9 Details	Case 9 Notes
10	Ivy Red	Case 10	Open	2023-01-10	Connecticut	Case 10 Description	Case 10 Details	Case 10 Notes
11	Jack Yellow	Case 11	Closed	2023-01-11	Delaware	Case 11 Description	Case 11 Details	Case 11 Notes
12	Karen Purple	Case 12	Pending	2023-01-12	Hawaii	Case 12 Description	Case 12 Details	Case 12 Notes
13	Liam Grey	Case 13	Open	2023-01-13	Idaho	Case 13 Description	Case 13 Details	Case 13 Notes
14	Mia Silver	Case 14	Closed	2023-01-14	Indiana	Case 14 Description	Case 14 Details	Case 14 Notes
15	Noah Gold	Case 15	Pending	2023-01-15	Iowa	Case 15 Description	Case 15 Details	Case 15 Notes
16	Olivia Bronze	Case 16	Open	2023-01-16	Kansas	Case 16 Description	Case 16 Details	Case 16 Notes
17	Peter Copper	Case 17	Closed	2023-01-17	Kentucky	Case 17 Description	Case 17 Details	Case 17 Notes
18	Quinn Iron	Case 18	Pending	2023-01-18	Louisiana	Case 18 Description	Case 18 Details	Case 18 Notes
19	Rachel Steel	Case 19	Open	2023-01-19	Maine	Case 19 Description	Case 19 Details	Case 19 Notes
20	Sam Tin	Case 20	Closed	2023-01-20	Massachusetts	Case 20 Description	Case 20 Details	Case 20 Notes
21	Tina Lead	Case 21	Pending	2023-01-21	Michigan	Case 21 Description	Case 21 Details	Case 21 Notes
22	Umar Zinc	Case 22	Open	2023-01-22	Minnesota	Case 22 Description	Case 22 Details	Case 22 Notes
23	Victoria Nickel	Case 23	Closed	2023-01-23	Mississippi	Case 23 Description	Case 23 Details	Case 23 Notes
24	Walter Silver	Case 24	Pending	2023-01-24	Montana	Case 24 Description	Case 24 Details	Case 24 Notes
25	Xavier Gold	Case 25	Open	2023-01-25	Nebraska	Case 25 Description	Case 25 Details	Case 25 Notes
26	Yara Bronze	Case 26	Closed	2023-01-26	Nevada	Case 26 Description	Case 26 Details	Case 26 Notes
27	Zoe Copper	Case 27	Pending	2023-01-27	New Hampshire	Case 27 Description	Case 27 Details	Case 27 Notes
28	Adam Iron	Case 28	Open	2023-01-28	New Jersey	Case 28 Description	Case 28 Details	Case 28 Notes
29	Bella Tin	Case 29	Closed	2023-01-29	New Mexico	Case 29 Description	Case 29 Details	Case 29 Notes
30	Charlie Lead	Case 30	Pending	2023-01-30	New York	Case 30 Description	Case 30 Details	Case 30 Notes

【あらすじ】

[illegible]

組 番 氏名

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

【資料３－①】 一年生 現代文 「物語を比較しあらすじをまとめよう」（ワークシート２）

次の文章は「羅生門」のもとになった「今昔物語集」の文章である。これを読み後の問に答えよ。

^{らせいもん}羅城門^{うはこし}の上層に登りて死人を見る盗人^{こと}の語

今は昔、摂津の国のほとりより、盗み^{盗みをしようとするため}せむがために京に上りける男の、日のいまだ明かりければ、
羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに、朱雀^{朱雀大路の方に人が多く行ったため}の方^{朱雀}に人しげく行きければ、人の静まるまでと思ひて、
門の下に待ち立てりけるに、山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、それに見えじと思ひ
にしようと思つて、門の２階にそつとよじ登ったところ
で、門の上層にやはらかかつり登りたりけるに、見れば、火ほのかにともしたり。

盗人、「あやし。」と思ひて、連子よりのぞきければ、若い女^{若い女で、死んで横たわっている女がいた。}の、死にて臥したるあり。その枕上
に火をともして、年いみじく老いたる媼の、白髪白きが、その死人の枕上にゐて、死人の髪をかなぐ
り抜き取るなりけり。

盗人これを見るに、心も得ねば、^{納得がいけないので、「これはもしかしたら鬼であろうか。」}「これはもし鬼にやあらむ。」と思ひて恐ろしけれども、^{もしかして}「もし死
死んだ者の霊かもしれない。脅して試してみよう。」
人^{死んだ者の霊かもしれない。脅して試してみよう。」}にてもぞある、脅して試みむ。」と思ひて、やはら戸を開けて、刀を抜きて、

「己は、己は。」
と言ひて走り寄りければ、媼、手惑ひをして、手を摺りて惑へば、盗人、
「これはどんな老婆がこのようなにしているのか。」
「こは何ぞの媼の、かくはしみたるぞ。」

と問ひければ、媼、
私の主人でいらっしゃった人が亡くなりなされて、^{葬る人がいないので、}
「己があるじにておはしましつる人の失せたまへるを、あつかふ人のなければ、かくて置きたてま
つりたるなり。その御髪^{その髪が背丈以上に長いので}の丈に余りて長ければ、それを抜き取りて鬘^{かつらにしよう}にせむとて抜くなり。助けて下さいへ。」
と問ひければ、盗人、死人の着たる衣と媼の着たる衣と、抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、下り走

りて逃げて去りにけり。
抜き取つてそこにあつた髪を奪ひ取つて

さてその上の層には死人の骸骨ぞ多かりける。死にたる人の、葬りなどえせぬをば、この門の上に
ぞ置きける。

このことは、その盗人の人に語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたとや。

『今昔物語集』巻第二九第一八

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

【資料 3-②】

1. 現代文教科書にある芥川龍之介「羅生門」との違いを箇条書きで書け。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

2. 芥川龍之介「羅生門」のあらすじを、今昔物語と違っている点を中心に200字以内でまとめなさい。

[illegible]

組 番 氏名

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

【資料4】

1 年現代文

「今昔物語と羅生門」 自己評価票

組 番

1. 自己評価

↓ どちらかに○をつける

「羅生門」のあらすじを理解していた。	はい ・ いいえ
「今昔物語集」の文章のあらすじを理解していた。	はい ・ いいえ
両者の違いを挙げることができた。	はい ・ いいえ
違いを意識してあらすじをまとめることができた。	はい ・ いいえ

2. 芥川は今昔物語の文章を素材に「羅生門」を創作したと考えられるが、ストーリーの一部を変えた意図について考えたことを書きなさい。(自由に)

3. この学習を通しての感想など (自由に)

氏名	番	組
...	...	...

[illegible]

- 28 -

【資料6】

1 年現代文

相互評価シート

組 番 氏名

さんの作品

※ 該当の点数に○をつける

		5	3	1
評価 規 準	① 結論は明示してある			
	② 小説の内容を踏まえている			
	③ 『今昔物語集』との違いについて考察がある			
	④ 『今昔物語集』との違いが主題の考察につなげられている			
	⑤ 根拠が明確で主題についての考察に説得力がある			
		合計		

ひとことメッセージ

【資料 7】

「羅生門」テーマを考える 自己評価シート

組 番 名前

1. 今時の活動を振り返って自己評価して下さい。

※ 該当の点数に○をつける

※ 該当の点数に○をつける		5	3	1
評価基準	① 結論は明示してある			
	② 小説の内容を踏まえている			
	③『今昔物語集』との違いについて考察がある			
	④『今昔物語集』との違いが主題の考察につなげられている			
	⑤ 根拠が明確で主題についての考察に説得力がある			
		合計		

2. 他の人の意見を聞いたり文章を読んだりして、印象に残ったことや参考になったことを書いてください。

[illegible]

3. 学習を終えて、「羅生門」について新たに疑問に思ったことや考えたことを書いてください。

[illegible]

<指導事例 3> 国語総合「古文を読んで脚本に書き換える事例」

【学習活動の概要】

1 単元名 「児のそら寝」を朗読劇の脚本にしよう

2 単元の目標

- ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて詳述をしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて詳述をしたりする。
(読む能力)
- ・文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解する。
(知識・理解)

3 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 文章を読んで脚本にしたり，古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- (2) 教材 『宇治拾遺物語「児のそら寝」』

4 単元の具体的な評価規準【P. 35資料 1】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文脈を捉え，語句や表現に注意して，書き手の考えなどを過不足無く理解しようとしている。 ・読む必要に応じて，文章の一部を詳述しようとしている。	・文脈を捉え，語句や表現に注意して，書き手の考えなどを過不足無く理解している。 ・読む必要に応じて，文章の一部を詳述している。	・文語のきまりを理解している。

5 単元の指導計画

(1) 学習活動

本単元では「児のそら寝」を読解し，テキストを朗読劇の脚本に書き換える。

(2) 言語活動に関する指導上の留意点

テキストを脚本に書き換えることにより，文章の内容や表現を一層深く理解できることに気付かせる。

次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	・繰り返し音読し，歴史的仮名遣いに気付く。 ・ペアで音読を確認し合う。 ・ペアで交互に，古文と，対応する現代語訳と	・歴史的仮名遣いや現代語と古語とで語義の異なる語に気付かせる。 ・指導者が原文を読み聞かせるな

	を音読する。	どの工夫をし、内容を捉えやすくする。
	【評価規準】 ・文語のきまりを理解している。(知識・理解) 【評価方法】 ・「記述の確認」ノート	
第2次	・現代語訳を活用しながら、朗読劇の脚本にリライトする。	・説話、比叡山については便覧や教科書の説明などを用いてイメージをもたせる。 ・会話部分だけではなく、地の文も可能な限り会話に直させる。
	【評価規準】 ・簡潔に述べられた本文の情景や心理を、脚本の必要に応じて言葉で表現しようとしている。(関心・意欲・態度) 【評価方法】 ・「記述の点検」【P.37資料2】 【評価規準】 ・簡潔に述べられた本文の情景や心理を、脚本の必要に応じて言葉で表現している。(読む能力) 【評価方法】 ・「記述の確認」【P.37資料2】	
第3次	・朗読劇を発表する。 ・それぞれの朗読について相互評価し、どのような内容理解が反映されているかを聞き取る。 ・基本的な語彙の確認を確認テストを用いて行う。	・評価シートを用いて他のグループの工夫した点を積極的に評価させる。
	【評価規準】 ・古語の意味を理解し、物語の設定や登場人物の行動に込められた価値観を理解し脚本にしたり、朗読劇を聞いたりしようとしている。(関心・意欲・態度) 【評価方法】 ・「記述の点検」【P.41資料3】 【評価規準】 ・古語の意味を理解し、物語の設定や登場人物の行動に込められた価値観を理解し脚本にしたり、朗読劇を聞いたりしている。(読む能力)	

【評価方法】 ・「記述の確認」【P. 41資料 3】 【評価規準】 ・文語のきまりを理解している。(知識・理解) 【評価方法】 ・「記述の確認」【P. 42資料 4】	
---	--

6 第2次の指導計画（1時限中の1時限目）

学習 段階	学 習 内 容	学 習 活 動	指導の留意点と評価の実際
導入	本次の目標を理解する。	①本次の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本次の目標を示す。 ・「おどろく」等の語義を確認させる。
展開	現代語による朗読劇の脚本をグループで創作する。	②脚本を創作する。 ・前半が脚本化してあるワークシートに続け、区切りごとに創作する。 ・役割を決めて前半を音読する。 ・せりふの読み方を指定するト書きを工夫する。 ・せりふによって心情を伝えるために、補足の必要な内容を考える。 ③朗読劇の練習をする。	②・この説話に描かれている人間理解の在り方が伝わるように創作させる。 ・クラスを6，7人のグループに分け、グループ内で相談して脚本化させる。 ・前半の脚本と、後半の「区切り」を設定してあるワークシートを教材として用意し、グループ内で役割を決めて音読させる。 ・会話文を直訳するだけでなく、心情が伝わるようにせりふに言葉を補わせる。 ・心情変化が伝わるようにト書きとせりふを工夫させる。 ・机間指導によって明らかにすべき内容が話し合われていないグループにはヒントを与える。
終結	学習のまとめと第3次の学習内容の確認をする。	④第3次の相互評価に用いるシートに、自分	④・相互評価シートを配布し、自分たちのグループの理解を再確認さ

る。	たちのグループの表現 意図等を記載する。	せ、朗読劇の発表への意欲を喚起 する。 ・各グループの脚本を提出させ る。
確認テストの予告をす る。		★【P.37資料2】の「記述の点検」 「記述の確認」に基づいて評価する。

7 指導事例と学習指導要領の関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて詳述をしたりする。
「国語総合」内容「C読むこと」の(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ア 文章を読んで脚本にしたり，古典を現代の物語に書き換えたりすること。
「国語総合」内容「C読むこと」の(2)

【言語活動の設定理由】

文章を脚本にして発表をするという活動には，脚本化することによる内容理解の深まりという効果がまず期待できる。また，簡潔な表現の文章を，言葉を補って他者に詳しく説明する際には，読み手がその文章をどのように理解したかということが如実に表れる。そのため，他のグループの発表を評価する際に，自分たちの脚本と比較して，その内容理解がどの程度のものであったかを生徒自身が実感できるという効果も期待できる。以上の2点から，文章を読んで脚本化するという言語活動は，上記の指導事項「文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて詳述をしたりする」を達成するために効果があると考えた。

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について 指導する。	「読む能力」に関する 評価規準の設定例（15項目）	重 点 化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 文章の内容や形態 に応じた表現の特色に 注意して読むこと。	a ① 文学的な文章について、内 容と、形態に応じた表現の特色 とを理解して文章を読んでいる。		・ 説話文学における人間理解の 在り方と具体的なエピソードと の関係を読み取っている。
	a ② 論理的な文章について、内 容と、形態に応じた表現の特色 とを理解して文章を読んでいる。		・ 該当無し
	a ③ 実用的な文章について、内 容と、形態に応じた表現の特色 とを理解して文章を読んでいる。		・ 該当無し
イ 文章の内容を叙述 に即して的確に読み取 ったり，必要に応じて 要約や詳述をしたりす ること。	b ① 文脈をとらえ，語句や表現 に注意して，書き手の考えなど を過不足無く理解している。	○	・ 古語の意味を理解し，物語の 設定や登場人物の行動に込めら れた価値観を理解し脚本にした り，朗読劇を聞いたりしている。
	b ② 読む必要に応じて，文章を 要約している。		・ 該当なし
	b ③ 読む必要に応じて，文章の 一部を詳述している。	○	・ 簡潔に述べられた本文の情景 や心理を，脚本の必要に応じて 言葉で表現している。
ウ 文章に描かれた人 物，情景，心情などを 表現に即して読み味わ うこと。	c ① 表現に即して，登場人物の， 行動や性格，ものの見方，感じ 方，考え方，ひいては生き方を 的確に捉えて，人物個々の心情 の変化や，人物相互の関係の変 容を読み取っている。		・ 表現に即して，登場人物の行 動やものの見方を的確にとら え，児の心情の変化を読みとっ ている。
	c ② 情景が，人物の心情の反映 や象徴，物事が起こる予兆など として設定されていることを理 解し，表現に即して，人物の言 動，置かれている状況を理解す る手がかりとしている。		・ 物語の面白さや登場人物の心 情をよりよく理解するために， 児を取り巻く情景・時間などの 設定の効果を考えている。
	c ③ 登場人物の心情に思いをい たし，自らの生き方と重ね合わ せて共感したり反発したりして いる。		・ 「僧たち」「児」それぞれの立 場になって，そのときの心情を 考え，これを脚本に反映させて いる。
	d ① 文章の組立て等の構成と， 考えの進め方や内容の推移等の		・ 説話として読者の共感を誘う 展開の工夫について確かめ，脚

	展開を確かめている。	本に反映させている。
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d ② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じている。	・場所や時間の設定がエピソードにおいて効果的であるかどうかを判定している。
	d ③ 段落に注目し、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。	・該当なし
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e ① 文学的、論理的、実用的文章等幅広い形態の、多様な内容の文章を、様々な方法で探して読んでいる。	・「説話」というジャンルに即する作品を読み、出典と粗筋を記した読書案内を執筆している。
	e ② 本や文章によって得た情報を選択、評価、加工している。	・「説話」に込められた人間理解、世界観について具体的な作品と関連付けて論じている。
	e ③ 幅広く本や文章を読み、書き手の意図を捉え、読み味わうことによって自分なりの考えをもつようになっている。	・「説話」に込められた人間理解、世界観と自分自身の価値観とを関連付けて論じている。

【資料２】「児のそら寝」脚本執筆のためのワークシート（第２次）

「児のそら寝」朗読劇脚本				
※①から⑩を参考にして、⑥以降のト書きと⑪からのせりふを創作しよう。				
伝えようとしていることが、聞き手に伝わるようにト書きやせりふを工夫しよう。				
No.	本文	ト書き	せりふ	
①	今は昔、比叡の山に児ありけり。	・ 鐘の音などがするとよい。 ・ 板張りの広い部屋に僧たちが集まっている。 ・ 児は部屋の隅でうつらうつらしているという設定。	僧 1 僧 2 僧 3 僧 4	「あの子をみてごらん。寝床も敷かないでうたたねしてるよ」 「まったく子どもはどこでも寝るもんだ」 「疲れてるんだよ」 「そうだな。まだまだ小さいのにこの広い寺の中を駆け回っているんだものな」
②	僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、	・ 僧たち、座る。 ・ 僧 5 はやんちゃな感じ。 僧 3 は分別のある感じ。	僧 5 僧 3 僧 4 僧 5 僧 1 僧 3 僧 2 僧 5	「どっこいしょ。まだ寝るには早いが、することもないな」 「学問に終わりはないぞ」 「うるさいことを言うなよ。今日の修行はいつもに増して厳しかった。たまには息抜きもな」 「そうだと。明日もしっかり頑張らなきゃいけないんだから、元気をつけるために、ぼたもちでもつくろう」 「ああ、それはよい。おい、みんな、一緒に作ろう」 「たまにはいいか」 「おれは大きいやつを作るぞ」 「おれもだ」
③	この児、心よせに聞きけり。	・ 児の声は高めの声で子どもらしく。独白は小さめの声で表現する。 ・ 児が会話に加わっていないことを表現するために、他の僧たちは互いの発言を受けて発言し合う。 ・ 僧たちは急に作るようになったぼたもちの材料集めに夢中になっている。	児 僧 5 僧 2 僧 4 僧 5 僧 1 僧 2	（独白）「お坊さんたちがぼたもちを作ろうとしている。うれしいな。僕も分けてもらえるかな。楽しみだな。お腹が鳴りそうだ」 「さあ、米を研ぐぞ。おまえたちは小豆のあんもできるかな」 「急には無理だよ」 「ここに、明日のために煮たのがあるぞ」 「よし。明日のを今から準備して、そっちのを今からちょっと借りておくことにしよう」 「足りない分は大豆を煎ってきなこを作ればいいな」 「よし。豆をもってこよう」

④	さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、	・最初はそわそわした感じ、 「いい匂い」のところはうっとりした感じで表現。 ・独白なので小さめの声で表現する。	児	(独白)「すごく楽しみだけど、できあがるのを待って、今日に限って寝ないでいるのも具合が良くないだろうな。どうしよう。ああ、あんこの煮えるおいしそうなおいが……。お豆さんを煎るにおいて、なんて香ばしい」
⑤	片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、	僧たちが夢中になって盛り上がりしている様子を表現する。	児 僧4 僧5 児 僧1 僧2 僧1 僧2 児	(独白)「じゃまにならないように、寝返りのふりをして隅っこに寄ろうかな。よいしょ。ああ、おいしいにおいだ。早くできあがって、誘ってくれないかなあ」 「おっ、小豆もふつつついてきたぞ」 「もっとしっかり つぶしておけよ」 (独白)「ああ、良いにおい」 「おい、熱いうちに粉にひくぞ。臼をもてこい」 「もうここにあるよ」 「よし。豆を落とすぞ。臼を回せ」 「よし。どんどん入れろ」 (独白)「ほくもお手伝いしたい」
⑥	すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。	(以下のト書きはグループで書き足すこと)	僧5 僧1 僧4 僧2 僧5	「さあさあ、できたぞ」 「むむ。それでは、器に並べよう。うまそうだな」 「おお、こいつは俺が食べるぞ」 「それでも良いが、こいつも大きいぞ」 「それでは、皆でいただこうか」
⑦	この児、さだめておどろかさむすらむと、待ちあたるに、		児	(独白)「私にもきっと声をかけてくださるだろう。ああ、温かな湯気、良いにおいだなあ。お腹が鳴るよ。早く起こしてほしいよ」
⑧	僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、		僧3 僧4	「その前にさて、幼い方も起こしてさしあげよう」 「ああ、そうだな。もしもし。お目覚めなさいませ。あなたの分もここにありますよ」

⑨	うれしとは思へども、		児	(独白)「ああうれしい。やっぱり起こしてくれたよ」
⑩	ただ一度にいらへむも待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、		児	「う〜ん。むにゃむにゃ。ぐう」 (独白)「でも、一回でぱっと起きてしまって、なんだか出来上がるのを待ってみたいに思われたらいけないな。今回は寝たままで、もう一度呼ばれてから返事をしよう。さあ、がまんがまん」 「むにゃむにゃ」
⑪	「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、			
⑫	あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと思ひ寝に聞けば、			
⑬	ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、			
⑭	すちなくて、無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、			

⑮	僧たち笑ふこと限りなし。			
⑯	(「笑い」の後の僧たちと児のやりとりを想像してみよう。)			

★以下の点も脚本化の参考にしよう。

⑪……もとのせりふは一人だが，周りの僧の言葉も想像してみよう。

⑫……児の心情を独り言にしてみよう。

⑬……「むしゃむしゃ」以外に，食べている雰囲気やせりふで表現してみよう。

⑭……「ずちなくて」の心情を独り言として表現しよう。

⑮……僧たちの笑いぶりを何人かの言葉として表現しよう。

⑯……児は食べながらと思われる。どんな気持ちだろうか。また，僧たちは児にどんな言葉を掛けているだろうか。

【資料3】「児のそら寝」脚本評価シート（第3次）

「児のそら寝」朗読劇脚本評価シート						
（1）朗読劇について評価します。 ※自分たちのグループの内容理解と、表現意図を記入する。 ※他のグループの発表を聞き、評価を記入する。						
班	僧たちは児の「狸寝入り」に気付いているか。	⑪の発言の声の大きさ	⑮の笑いに込められている心情	古語の口語訳のしかたで気になった箇所	特に工夫の感じられた（工夫した）ところ	総合評価 A～E
1班						
2班						
3班						
4班						
5班						
6班						

（2）「児のそら寝」の学習を通して学んだことを振り返りましょう。

※グループの話し合いを通して、この説話が「伝えようとしていること」はどんなことだと考えましたか。

【資料 4】「児のそら寝」確認テスト

1 年【 】組【 】番【 】

○次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

これも今は昔、比叡の山に児ありけり。僧たち、よひのつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。さりとて、しいださむを待ちて①寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、かたかたに寄りて、寝たるよしにて、いでくるを待ちけるに、すでにしいだしたるさまにて、ひしめきあひたり。

この児、②さだめておどろかさむずらむと待ちゐたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは思へども、ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひとこゑ呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は寝入りたまひにけり。」と言ふこゑのしければ、あな③わびしと思ひて、いま一度起こせかしと思ひ寝に聞けば、ひしひしとただ食ひに食ふ音のしければ、ずちなくて、無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たちわらふことかぎりなし。

問一 文章の中にある次の語句の読みを現代仮名遣いで書きなさい。

- ① よひ 【 】 ② ひしめきあひたり 【 】
③ 待ちゐたる 【 】 ④ さぶらはむ 【 】
⑤ ひとこゑ 【 】 ⑥ をさなき人 【 】

問二 次の①～④の語句の意味を答えよ。

- ① つれづれ 【 】 ② さだめて 【 】
③ な(起こしたてまつり)そ【 】 ④ あな 【 】

問三 傍線部①～③の口語訳として適当なものを、それぞれ記号で選んで答えよ。

- ① ア 寝るのも、都合が悪い イ 寝てしまったら、もったいない
ウ 寝ないのも、飽きてしまうだろう エ 寝ないでいたら、格好がよくないだろう 【 】
- ② ア きっと自分を起こすだろう イ 必ずびっくりするにちがいない
ウ もちろん自分から目を覚ますはずだ エ たぶん驚かせることはないだろう 【 】
- ③ ア もったいない イ 困った ウ うれしい エ 貧しい 【 】

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

<指導事例4> 国語総合「和歌の修辞技法を用いて短歌を創作する事例」

【学習活動の概要】

1 単元名 「三夕の和歌」をもとに着想した短歌を詠もう

2 単元の目標

- ・優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。
(書く能力)
- ・和歌の修辞技法や，語句の用い方について理解する。
(知識・理解)

3 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくること。
- (2) 教材 『新古今和歌集（三夕の和歌）』（寂連法師，西行法師，藤原定家）

4 単元の具体的な評価規準【P.47資料1】

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
・内容や表現の優れた文章に接して，その優れた点を分析し，表現に役立てようとしている。 ・幅広く文章を読んで，文章を書くのに必要なものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとしている。	・内容や表現の優れた文章に接して，その優れた点を分析し，表現に役立てている。 ・幅広く文章を読んで，文章を書くのに必要なものの見方，感じ方，考え方を豊かにしている。	・和歌の修辞技法や，語句の用い方について理解している。

5 単元の指導計画

(1) 学習活動

「三夕の和歌」の読解を通して，「三夕の和歌」に用いられている修辞技法を用いて，短歌を創作する。

(2) 言語活動に関する指導上の留意点

古歌の季節感や情緒に学び，修辞技法を生かして，自らの感じ方を言語化できるようにする。

次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点

第1次	・マインド・マップを用い、「秋」のイメージをふくらませるとともに、共通概念としての「秋」のイメージをもつ。	・マインドマップは細かいルールに縛られず、あくまでブレインストーミングの手段として利用させる。
	【評価規準】 ・韻文や散文，または歌詞などを読んで，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにしようとしている。（関心・意欲・態度） 【評価方法】 「記述の点検」（マインドマップ）	
第2次	・「三夕の和歌」の解釈を通して，修辞技法（レトリック）を把握する。 ・「三夕の和歌」の解釈を通して，「～の秋の夕暮れ」となるような第4句の6音を探す。	・読解の段階で修辞技法の指摘にとどまらず，使用効果（使用意図）を考えさせるようにする。 ・マインドマップで広げた連想，またはその連想法を使用するよう助言する。
	【評価規準】 ・和歌の修辞技法や語句の用い方について理解している。（知識・理解） 【評価方法】 「記述の確認」【P.48資料2】とノート	
第3次	・「三夕の和歌」の修辞技法（レトリック）を用いて短歌を詠む。 ・第5句は指導者が設定したものから選んで詠む。	・第5句は第1次でふくらませた「秋」のイメージに合うものを提示する。
	【評価規準】 ・「三夕の和歌」の表現方法や技法を分析して，短歌の創作に役立てている。（書く能力） 【評価方法】 「記述の確認」【P.49資料3】	
第4次	・相互評価，自己評価を行う。	・相互評価の際は，修辞技法の使用意図も含めて発表させる。
	【評価規準】 ・幅広く文章を読んで，文章を書くのに必要なものの見方，感じ方，考え方を豊かにしている。（書く能力） 【評価の方法】	

6 第 3 次の指導計画（1 時限中 1 時限）

学習段階	学 習 内 容	学 習 活 動	指導の留意点と評価の実際
導入	本次の目標を理解する。	①本次の目標と言語活動について確認する。	①・前時に膨らませたイメージを創作に生かすよう助言する。
展開	「三夕の和歌」の修辞技法やレトリックを用いて短歌を詠む。	②短歌を詠むにあたっての条件の確認をする。 ③【P. 50資料 4】の「結句のリスト」の中から、自分が使用する結句を選び、そこから連想されるイメージを書き出す。 ④連想したイメージをもとにして、短歌を詠む。	②・短歌を詠むにあたって、以下の条件を提示する。 a 結句は必ず、【P. 50資料 4】の「結句のリスト」から選ぶこと。 b 「三夕の和歌」の解釈で学習した修辞技法を必ず一つ以上使用すること。 ③・マインドマップで広げた連想、またはその連想法を使用するよう助言する。 ④・「三夕の和歌」に使用されていた修辞技法とその効果を板書するなどして、再確認させる。 ・自分が使用する（した）修辞技法とその使用意図を【P. 49資料 3】に書き込ませる。
終結	第 4 次の予告をする。	⑤第 4 次に相互評価、自己評価を行うことを確認する。 ⑥【P. 49資料 3】を提出する。	⑥【P. 49資料 3】を提出させる。 ★【P. 49資料 3】の「記述の

7 指導事項と学習指導要領の関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

エ 優れた表現に接してその条件を考えたり，書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。
「国語総合」内容「B書くこと」の(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである（主に下線部）。

ア 情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆を書いたりすること。
「国語総合」内容「B書くこと」の(2)

【言語活動の設定理由】

詩歌を創作することをはじめ，文章を書く活動は小学校段階から行われ，指導もされている。しかし，生徒たちの中には自分の視点を表すことに苦手意識をもつ生徒がいる。そこで，「三夕の和歌」に使用されている修辞技法をまねて短歌を詠むことによって「書く能力」が培われると考え，「情景や心情の描写を取り入れて，詩歌をつくったり随筆を書いたりする」言語活動を設定した。

【資料１】「具体的な評価規準の設定例（書く能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について指導する。	「書く能力」に関する 評価規準の設定例(9項目)	重点化	言語活動における具体的な評価規準 の設定例
ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。	a ① 相手や目的に応じて題材を選び、集めた材料の中から必要なものを取捨選択している。		・ 自己の生活や経験を振り返り、表現したい題材を選んでいる。
	a ② 相手や目的に応じて適切な文章の形態や文体、語句を選んで書いている。		・ 自己の経験や思考の中から、表現したい内容を整理し、語句を選んで書いている。
イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめていること。	b ① 自らの考えを説得力のある文章で表現するために、思考を整理し、論理の構成や展開を工夫して書いている。		・ 該当なし
	b ② 客観性のある資料を根拠として、論理的な展開の文章を書き、自分の考えをまとめている。		・ 該当なし
ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	c ① 事実と意見、中心的な部分と付加的な部分との関係を明らかにするなどして、事柄を具体的に説明したり、手順や理由などを論理的に説明したりしている。		・ 該当なし
	c ② 表現技法等の表現の仕方を工夫するなどして、物事の様子や心情等を描写している。		・ 表現技法を工夫して、情景や人物の心情などを描写している。
エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	d ① 内容や表現の優れた文章に接して、その優れた点を分析し、表現に役立てている。	○	・ 「三夕の歌」の表現方法や技法を分析して、短歌の創作に役立てている。
	d ② 文章の内容や表現などについて、自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。		・ 詠んだ短歌を自己評価や相互評価することで、表現に役立てている。
	d ③ 幅広く文章を読んで、文章を書くのに必要なものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	○	・ 韻文や散文、または歌詞などを読んで、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。

【資料2】 「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート ②

()組 ()番 氏名 ()

☆ 学習の振り返り

① 「秋の夕暮れ」はどのような心情を起こさせるか。

--

② 「秋の夕暮れ」に対して、「まき立つ山」、「鳴立つ沢」、「浦の苫屋」はそれぞれどのような関係にあたるか。

まき立つ山	
鳴立つ沢	
浦の苫屋	

1 さびしさはその色としもなかりけり **まき立つ山** の秋の夕暮れ 寂連法師

(1) 「まき立つ山」に代わる情景を考えてみよう。

--

(2) 「まき立つ山」に代わる六文字の情景を () に入れよう。

さびしさはその色としもなかりけり () の秋の夕暮れ

2 心なき身にもあはれは知られけり **鳴立つ沢** の秋の夕暮れ 西行法師

(1) 「鳴立つ沢」に代わる情景を考えてみよう。

--

(2) 「鳴立つ沢」に代わる六文字の情景を () に入れよう。

心なき身にもあはれは知られけり () の秋の夕暮れ

3 見渡せば花も紅葉もなかりけり **浦の苫屋** の秋の夕暮れ 藤原定家

(1) 「浦の苫屋」に代わる情景を考えてみよう。

--

(2) 「浦の苫屋」に代わる六文字の情景を () に入れよう。

見渡せば花も紅葉もなかりけり () の秋の夕暮れ

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

【資料3】「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート③

() 組 () 番 氏名 ()

1 あなたが使用する第五句はどれですか。

第 五 句	そ こ か ら 想 像 (連 想) さ れ る イ メ ー ジ

2 作品を書いてみよう

--

3 自分が使用した修辞技法(レトリック)は何ですか。

修辞技法 (レトリック)	使 用 し た 意 図
①	
②	
③	

※この資料は掲載の都合上横書きになっているが、もとは縦書きである。

「三タの歌」をもとに着想した短歌を書こう 結句のリスト

【資料 4】

結句	例歌	出典	詠者
「秋は来にけり」	このまよりもくりくる月のかげみれば 心づくしの秋は来にけり	古今和歌集	よみ人知らず
	神なびのみむろの山のくずかづら うち吹きかへす秋は来にけり	新古今和歌集	中納言家持
	きのふだにとはんと思ひし津の國の 生田の杜の秋は来にけり	新古今和歌集	藤原家隆朝臣
	ふか草の露のよすがを契りにて 里をばかれず秋は来にけり	新古今和歌集	摂政太政大臣
	あはれ又 いかに忍ばん袖の露 野原の風に秋は来にけり	新古今和歌集	右衛門督通具
「秋の夜の月」	みしぶつき植ゑし山田にひたはへて 又袖ぬらす秋は来にけり	新古今和歌集	皇太后宮大夫俊成
	白雲にはねうちかはしとぶかりの かずさへみゆるあきのよの月	古今和歌集	よみ人知らず
	大あらきの杜の木のまをもちかねて 人だのめなる秋のよの月	新古今和歌集	皇太后宮大夫俊成女
	あやなくもくもらぬ宵をいとふ哉 忍ぶの里の秋のよの月	新古今和歌集	橘為仲朝臣
	ふけゆかば煙もあらじ 塩がまのうらみなはてそ 秋の夜の月	新古今和歌集	前大僧正慈圓
「もみぢなりけり」	うき身には詠むるかひもなかりけり 心にくもる秋の夜の月	新古今和歌集	前大僧正慈圓
	詠めつゝおもふにぬるゝたもと哉 いく夜かはみん 秋の夜の月	新古今和歌集	殷富門院大輔
	深くるまでながむればこそ悲しけれ 思ひもいれじ 秋の夜の月	新古今和歌集	式子内親王
	山がはに風のかけたるしがらみは ながれもあへぬもみぢなりけり	古今和歌集	はるみちのつらき
	みちしらばたづねもゆかん もみぢばをぬさとたむけて秋はいにけり	古今和歌集	みつね
「秋の夕暮れ」	詠むれば衣で涼し 久堅の 天の川原の秋の夕暮れ	新古今和歌集	式子内親王
	をぐら山 薔の野べの花すゝき ほのかにみゆる秋の夕暮	新古今和歌集	詠み人知らず
	おしなべて思ひしことの数々に 猶色ませる秋の夕暮	新古今和歌集	摂津太政大臣
	物おもはでかゝる露やは袖におく 詠めてけりな 秋の夕暮	新古今和歌集	摂津太政大臣
	たへてやは 思ひありともいかにせん むぐらの宿の秋の夕暮れ	新古今和歌集	藤原雅経
「松虫の声」	我ならぬ人もあはれやまさるらん 鹿鳴く山の秋の夕暮	新古今和歌集	土御門内大臣
	村雨の露もまだひぬ嶺の葉に 霧立ちのぼる秋の夕暮れ	新古今和歌集	寂蓮法師
	虫のねも長き夜あかぬ古郷に 猶思ひそふ松虫の声	新古今和歌集	家隆朝臣
	跡もなき庭のあさぎにむすほほれ 露のそこなる松むし声	新古今和歌集	式子内親王
	ねざめする袖さへさむく 秋の夜の風吹くなり 松虫の声	新古今和歌集	大江嘉言
「秋ぞ暮れぬる」	時鳥鳴く五月雨に植ゑし田を 鴈がねさむみ 秋ぞ暮れぬる	新古今和歌集	善滋為政朝臣
	夏草の かりそめにとてこし宿の 難波の浦に秋ぞ暮れぬる	新古今和歌集	能因法師

注) 例歌は新日本古典文学大系より引用

【資料5】 「三夕の歌」をもとに着想した短歌を書こう ワークシート ④

() 組 () 番 氏名 ()

☆ 相互評価表

() さんの作品

使用されている修辞技法は

です。

使用されている第五句は

です。

※ 該当の記号に○をつける。 A : よい B : ふつう C : よくない

評価 規 準	修 辞 技 法	① 作者は修辞技法を 自覚的に 使用しているか。	A	B	C
		② その修辞技法は 適切に 使われているか。	A	B	C
		③ その修辞技法は 効果的に 使われているか。	A	B	C
	第 五 句	④ 第五句は 適切に (季節感覚や時間など)使われているか。	A	B	C
		⑤ 第五句のイメージは作品の内容と合っているか。	A	B	C

点数換算 A : 5 点 B : 3 点 C : 1 点

/ 25

アドバイスや感想

() 組 () 番 氏名 ()

※ 該当の記号に○をつける。 A：よい B：ふつう C：よくない

2 自己評価や相互評価を終えて、自分の作品の改善すべき点はどこにあるか。

[illegible]